クローバーだより

2022 年 6 月 17 日
名古屋柳城短期大学附属三好丘
聖マーガレット幼稚園
林　知子

子どもの発達段階と年齢に応じた課題を理解しておこう！②

前号では幼児期前期までお伝えしましたが、今回は幼児期後期から青年期についてご紹介します。

3、幼児後期（3 歳～5 歳）　自発性の発達

幼稚園や保育園に通うようになり、親の元以外で過ごす時間が増えます。その中で、自分で遊ぶものを見つけたり、友だちに話しかけたりするようになります。自発的に何か行動を起こすようになったら、間違った方向に自発性が発揮しないように見守りつつ、しっかり子どもにも反応してあげるようにしましょう。

4、学童期（5 歳～12 歳頃）　勤勉性の発達

日本では小学校に通う年齢で、勉強する方法や楽しさを発見し、自らもっと学びたいと思うようになります。そうはいっても、すべての子どもが勉強好きなわけではありません。また、どんなに勉強しても得意分野と不得意分野があるのは当然のことです。この時に、親や周りの大人がしっかりとサポートすることが大切です。ぜひ得意分野を伸ばしていく工夫をしてみてください。

5、青年期（12 歳～18 歳頃）　同一性の発達

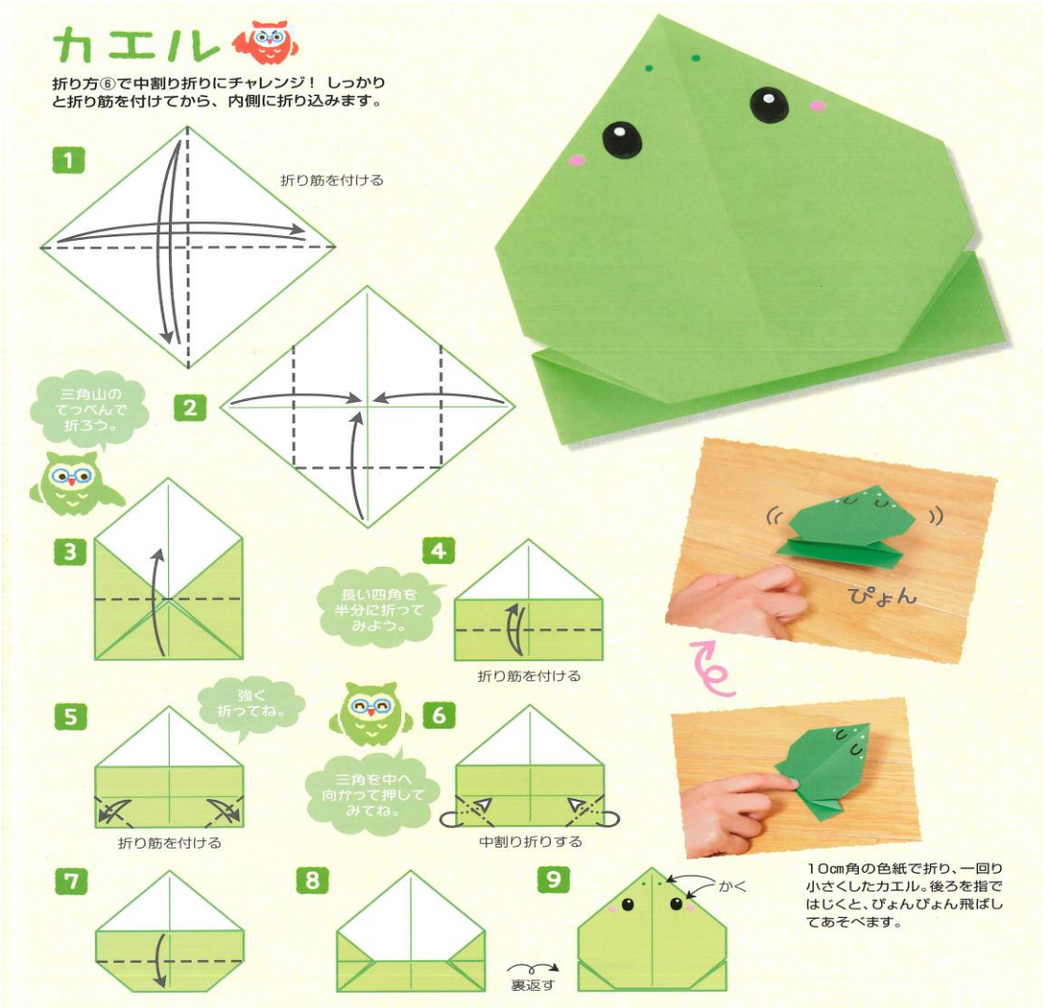
同一性とは、自分とは何者なのか、将来どうすべきか、自分は何をしたいか、何になりたいのかといったことをたくさん考えた結果確立されたアイデンティティのことです。
自分がどんな人間なのかを知り、社会とどのように関わりを持つかを考えることで、将来に関わる行動に出る事が出来ます。

では、具体的にどのような関わりをしていくとよいのでしょうか？それぞれの発達段階に応じた関わり方や課題の一例をあげてみると・・・

＊乳児期➡とにかくたくさんの愛情を！
＊幼児期➡自分でチャレンジするするチャンスを！
＊学童期➡道徳観を伝え、社会での行動を理解してもらう！　　などです。

この発達段階に応じた課題は、早すぎると子どもの自信を奪うことになり、遅すぎるとその後の発達段階に進む際に支障が出る可能性があります。

子どもの成長には個人差がありますが、毎日しっかりと観察して、お子様が今どの段階にいるのかを把握してください。その発達段階に応じた課題をクリアしていくことで、より自信が身についていきます。発達段階、発達課題についての理解を深め、適切なタイミングでお子様をサポートし、成長を見守るようにしていってください。



「あ･き･み」の3色の食材をバランスよく食べよう

肉や魚、卵など赤い色のグループは、体の血液や筋肉を作るもとになります。黄色のグループは、ごはんやうどん、パンなどで、体を動かすエネルギー源。緑色のグループは、ほうれんそうやにんじんなど野菜や海藻類で、体の調子を整えてくれます。赤・黄・緑の「あきみちゃん」をバランスよく食べることで、元気に活動することができます。

料理を引き立てる「だし」の味を知ろう

だしにはうまみ成分が多く含まれており、うまみは甘み・塩味・酸み・苦味と並ぶ、「五味」の一つとして、料理をおいしくするもとです。うまみ成分のイノシン酸はかつお節に、グルタミン酸は昆布に豊富で、他にも煮干しや干ししいたけ、食材の中ではトマトがうまみ成分をたっぷり含んでいます。みそ汁もだしで作るからこそうまみを感じ、シンプルでも深い味わいになります。

《子育て相談》

自分の子育てにこれでいいのかな？と不安に思われた時、
こんな時どうしたらいいのと思われた時にお話にいらっしゃいませんか？
保育経験者がお話しさせていただきます。お電話で予約していただき、
ご都合の良い日を決めさせていただきます。
TEL　０５６１－３６－８３７３　　お電話お待ちしています。